

おわりに

日常診療において肝不全患者の治療には絶えず難渋し苦慮している。そんな現状を打開するため、われわれは2001年より新たな「肝臓再生療法」の開発を目指して基礎研究を開始した。慢性肝障害下に存在する微小環境「分化Niche」において、骨髄細胞が肝芽細胞の表現型を経て機能的成熟肝細胞へと分化することをわれわれは証明し、またその過程で肝合成能・肝線維化さらには生命予後が有意に改善するという臨床応用への橋渡しとなるべく非常に興味深い結果を得た。図4にspeculationを含めたまとめのシエーマを示す。それらの動物実験結果を基盤として2003年11月から国内初の臨床研究「自己骨髄細胞を用いた肝臓再生療法」を始めるに至ったわけであるが、今後その症例数を重ねていく中で、より効率の良い治療法の開発に向けて再度基礎研究へとフィードバックし、さらなるリサーチを進めていきたいと考えている。

文献

- 1) Alison, M. R. et al. : Nature, 406 : 257, 2000
- 2) Theise, N. D. et al. : Hepatology, 32 : 11-16, 2000
- 3) Terai, S. et al. : J. Biochem., 134 : 551-558, 2003
- 4) Yamamoto, N. et al. : Biochem. Biophys. Res.

Commun., 313 : 1110-1118, 2004

- 5) Sakaida, I. et al. : Hepatology, 40 : 1304-1311, 2004
- 6) Omori, K. et al. : FEBS Lett., 578 : 10-20, 2004
- 7) Ishikawa, T. et al. : CTR, Oct 14 : 1-11, 2005
- 8) Terai, S. et al. : J. Hepatobiliary Pancreat. Surg., 12 (3) : 203-207, 2005
- 9) Detillieux, K. A. et al. : Cardiovasc. Res., 57 : 8-19, 2003
- 10) Kowalczyk, J. & Pasyk, S. : Pol Merkuriusz Lek, 13 : 74-78, 2002
- 11) Werner, S. & Grose, R. : Physiol. Rev., 83 : 835-870, 2003
- 12) Goodman, S. B. et al. : J. Biomed. Mater. Res., 65A : 454-461, 2003
- 13) Laham, R. J. et al. : J. Am. Coll. Cardiol., 36 : 2132-2139, 2000
- 14) Lederman, R. J. et al. : Lancet, 359 : 2053-2058, 2002
- 15) Fu, X. et al. : Chin. Med. J. (Engl), 115 : 331-335, 2002

〈筆頭著者プロフィール〉

石川 剛：2000年3月山口大学医学部医学科を卒業後、同年5月山口大学医学部消化器病態内科学（旧内科学第一講座）に入局。2年間の臨床研修を終え、'02年4月同大学大学院医学系研究科に入学。消化器病学、特に肝臓病学を中心に臨床・研究の両分野に従事し、「自己骨髄細胞を用いた肝臓再生療法」の開発を目指すグループの一員として、基礎研究・臨床研究に携わっている。